

鳥取県内のキノボリトタテグモの新産地

鶴崎展巨*・川口みなこ・船倉大和・松本 透

〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101
鳥取大学地域学部地域環境学科
*E-mail: ntsuru@rstu.jp

Nobuo TSURUSAKI, Minako KAWAGUCHI, Yamato FUNAKURA and Tohru MATSUMOTO (Laboratory of Biology, Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 JAPAN); **New records of *Ummidia fragaria* (Araneae: Ctenizidae) from Tottori Prefecture, Honshu, Japan.**

Abstract – Four localities (three in Tottori City, one in Hino-cho) of an endangered spider *Ummidia fragaria* (Araneae, Ctenizidae) are newly recorded from Tottori Prefecture, Japan. All the localities are in the precincts of shrines.

キノボリトタテグモ *Ummidia fragaria* (Dönitz, 1887) (トタテグモ科) は環境省版(2006)および鳥取県版(2002)のレッドリストに準絶滅危惧のランクで掲載されている日本固有種(新潟県以南の本州・四国・九州・南西諸島に分布: 新海ら, 2006)のクモである(環境省, 2006; 西川, 2006)。鳥取県からは2001年末の時点で岩美町2地点(長谷, 浦富), 鳥取市1地点(猪子), 倉吉市1地点(打吹山)で生息が確認されているが(有田・鶴崎, 1991, 2002), われわれは2006年の千代川流域における別目的での調査(ゴホントゲザトウムシの分布調査)のおり, 鳥取市内から新たに3カ所, 本種の生息地を確認したので報告する。また, 未報告の日野町の1カ所の記録および, 詳細記録がやはり未公表であった上記の地点の記録も合わせて報告する。

【新産地】(1)鳥取市徳尾大野見宿彌命(おおのみのすくねのみことの)神社(通称徳尾の森), 1幼体(根本近くの樹幹に営巣), 18-IV-2006; (2)鳥取市倉田倉田八幡宮, 1空巣(石塔に営巣, 写真あり), 6-VI-2006; (3)鳥取市玉津玉津神社, 1空巣(石段側面に営巣), 13-VI-2006, 以上, 確認者はいずれも著者ら; (4)日野町金持金持(かもち)神社, 270 m, 数個営巣(樹幹に営巣), 20-VI-2005, 鶴崎。

【既知産地のデータ】(1)岩美町長谷長谷の神社, 1巣(石垣側面), 25-VII-2001; (2)岩美町浦富熊野神社(石塔側面), 1巣, 25-VII-2001, 以上確認者は鶴崎; (3)鳥取市猪子, 1♀, 7-I-1963(これが鳥取県内でもっとも古い本種の記録である): 1♀(他に巣5個あり), 12-II-2001, 以上確認者は有田立身。

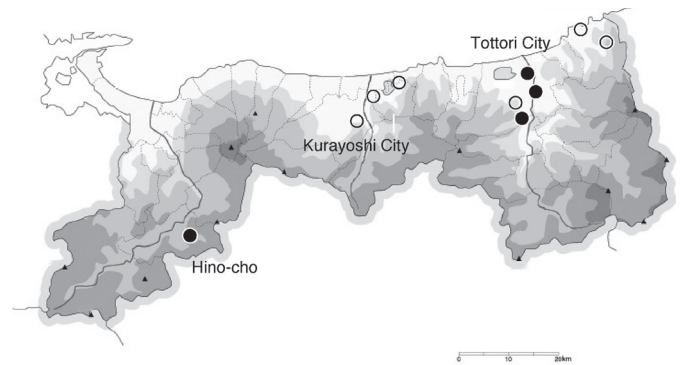


図1. 鳥取県内におけるキノボリトタテグモの産地。●は新記録地。○は既知記録(有田・鶴崎, 1993, 2002)。●は上から, 大野見宿彌命神社, 倉田八幡宮, 玉津神社(以上, 鳥取市), 金持神社(日野町)。○は右から, 長谷神社, 熊野神社(以上, 岩美町), 猪子(鳥取市), 倭文神社(湯梨浜町), 波波伎神社, 打吹山(以上, 倉吉市)。中部の倭文神社, 波波伎神社の2カ所については, 鳥取県RDB調査時の2000年10月1日に鶴崎が探索したかぎりでは, 営巣を確認できず, 現況は不明。

Fig. 1. Distribution of *Ummidia fragaria* in Tottori Prefecture. ● = Localities newly found, ○ = known records (Arita and Tsurusaki, 1993, 2002). Names of localities marked by ● are from above: Oonomi-no-sukune-no-mikoto Shrine, Kurata Hachiman-gu Shrine, Tamatsu Shrine (Tottori City) and Kamochi Shrine (Hino-cho). Those marked by ○ are from right to left: Nagatani Shrine, Kumano Shrine (Iwami-cho), Shitori Shrine (Yurihama-cho), Hahaki Shrine, Mt. Utsubuki (Kurayoshi City). No nests were found for Shitori Shrine and Hahaki Shrine when N. Tsurusaki visited there on 1 October 2000 and present statuses of the populations are unknown.

これらの位置は図1に記した。本種は林内の樹幹や岩上にふたつきの巣をつくるが, 神社境内で見つかることが多い。ただし, どの神社でも見つかるわけではなく, 比較的よく見つかるのは, 1) 一定規模の社叢をともない, 2) 石垣などが目張りされていない(石と石の間に隙間がある), 神社の石灯籠や石垣の側面である。

謝辞: 鳥取市猪子の記録は故有田立身氏からご教示いただいた。

文 献

有田立身・鶴崎展巨(1993) キシノウエトタテグモ・キノボリトタテグモ. pp. 184-185. In: 江原昭三・鶴崎展巨(編) 鳥取県のすぐれた自然. 動物編. 鳥取県生活環境部自然保護課, 327 pp.

有田立身・鶴崎展巨(2002) キノボリトタテグモ. p. 163. In: 鳥取県自然環境調査研究会動物調査部会(編) レッドデータブックとっとり(動物). 鳥取県生活環境部環境

政策課. 214 pp.

環境省(2006) 報道発表資料. 鳥類, 爬虫類, 両生類及びその他無脊椎動物のレッドリストの見直しについて(平成18年12月22日づけ) <http://www.env.go.jp/press/press.php?serial=7849>.

西川喜朗(2006) キノボリトタテグモ. p. 59. In: 環境省自然環境局野生生物課(編) 改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物. —レッドデータブック—. クモ形類・甲殻類等. (財)自然環境研究センター(東京), 86 pp.

新海 明・安藤昭久・谷川明男(2006) 県別クモ類分布図 ver. 2006, CD-ROM, 著者ら自刊.

Received December 4, 2007 / Accepted December 10, 2007

鳥取県からのクロガケジグモ (ウシオグモ科)の生息確認

鶴崎展巨

〒680-8551 鳥取市湖山町南4-101

鳥取大学地域学部生物学研究室

E-mail: ntsuru@rstu.jp

Nobuo TSURUSAKI (Laboratory of Biology, Faculty of Regional Sciences, Tottori University, Tottori, 680-8551 JAPAN):

Occurrence of *Badumna insignis* (Araneae: Desidae) from Tottori Prefecture, Honshu, Japan.

Abstract – An alien spider *Badumna insignis* (L. Koch, 1872) (Desidae) was found from Tottori Prefecture, for the first time. The range of the species so far confirmed covers Koyama and Katsurami areas in Tottori City, and their nests are commonly found on fences, guardrail posts, spaces formed by walls and eaves of buildings in the areas. It is very likely that the species spreads over ranges far wider than the areas confirmed.

クロガケジグモ *Badumna insignis* (L. Koch, 1872) (図1A-B, D)はオーストラリア(おもに東部)・タスマニア・パプアニューギニア・ニュージーランド北島を原産地とするウシオグモ科(Desidae)のクモである(Forster and Forster, 1999; Raven et al., 2002; Hawkeswood, 2003)。本種は日本では最初1963年に大阪府東南部で見つかり, その後しばらくは大阪府東南部・奈良県・和歌山北部から知られるのみであったが(八木沼, 1974, 1976), 分布範囲は徐々に拡大し(徳本,

1995), 現在では近畿地方, 東海地方の全域と石川, 岐阜・長野, 広島, 大分・熊本・宮崎の各県の16府県で知られるにいたっている(新海ら, 2006)。兵庫県では早くも1988年に瀬戸内側のみでなく但馬地方(日高町)で生息が確認されており(本庄・山本, 1991), 鳥取県への分布拡大も当然予想される範囲であったが, これまで未確認であった。

先般の鳥取県の外来種リスト作成のおり, 鳥取大学構内でみつける黒色の大型のクモや湖山川の湖山池からの流下地点にかかる橋梁のガードレールにボコ網をつくっているクモが本種, または広島県の瀬戸内海沿岸部から記録されているやはりオーストラリア原産の別の外来種ハルカガケジグモ *Badumna longinqua* (L. Koch, 1867)のいずれかではないかと想像していたが, なかなか成体が採集されず種名確認にいたっていなかった。今年(2007)成体を得て, 本種がクロガケジグモであることを確認しえたので, ここに報告する。

【記録】鳥取市湖山町南鳥取大学構内: 保健管理センター外壁, 1亜成体(♀), 1-VII-2006; 教育実践総合センター付近施設外壁, 1幼体, 9-V-2007; 附属小学校校舎窓枠, 1♀(卵のうから孵化してまだ分散していない幼体が多数同居していた), 1-IX-2007; 附属小学校裏のフェンス, 網多数, 4-XI-2007. 鳥取市湖山町南湖山川出津水橋, 5♀, 6-VII-2007(図1), 鳥取市布勢運動公園, 網, 7-X-2007. 鳥取市桂見桂見台第2公園, 1♀, 6-VII-2007. (以上, 採集者および観察者は鶴崎展巨)

これまでに確認した範囲は鳥取市湖山町の鳥取大学構内から布勢運動公園および桂見にかけてであるが, これらの地域では本種はふつうに見つかる。おそらくもっと広範囲に分布を広げていると考えられる。

本種はオーストラリアでBlack House Spider, Window Spiders, ニュージーランドでBlack Window Spiderなどと通称されているように, 住宅地の住居の外壁や窓枠にふつうに見られる種である(Hawkeswood, 2003; Forster and Forster, 1999)。鳥取市の上記の生息確認地でも, ガードレールの支柱とレールの隙間や公園の植栽樹の支柱と支柱のすきま, 塀の隙間, 建造物の窓枠などによく目立つ網(図1C)をかけているが, クモは少なくとも日中は, パイプ支柱のパイプの孔隙などにつくった漏斗状の待避所に姿を隠しており, 採集が困難である。この問題は, ネットによるスウィーピングで捕らえたバツタなどを漏斗状の待避所から外側に広がっている網の部分にかけ, バツタの振動を感知したクモが外に出てきたところを捕まえることで解決した。

なお, 日本では本種による咬傷例を聞かないが, 原産地のオーストラリアでは報告があり, 咬まれた場合には痛みが強く, 人によっては腫れや多量の発汗, 震えなどの症状がでるといわれている(Forster and Forster, 1999; Hawkeswood, 2003)。素手ではむやみにつかまないようにしたほうが無